

事例4 単元「人物の考え方や生き方をとらえよう ―「わらぐつの中の神様」を通して―

読み方のアイテムを増やしていこう！！

国語 第5学年

内灘町立鶴ヶ丘小学校

1 事例の概要

本校は、県「活用力向上推進モデル校」の指定を受け、「活用力」のとらえや授業における活用の場と支援について考え、授業の改善に取り組んできた。活用できるものを「学びのアイテム」ととらえ、少しずつアイテムを整理して増やし、学びをつなげていくことを大切にしている。

本学級の児童は、読書量が多く国語の学習に対しての自己肯定感が高い。しかし、文章を読んで自分なりの考えをもつことや自分の考えをみんなに伝えることには苦手意識を持っている児童が多い。全体の場で進んで発言しようとする児童も少ないため、考えを聴き合い深めていくことが十分にできていない。

これらの実態を受けて、物語文「わらぐつの中の神様」を通して、自信を持って自分の考えを話したり友達の考えとつなげて読みを深めたりできるようにし、確かな読みの力を身につけさせたいと考えた。その方策として以下の3点に力を入れ実践した。

- ・児童が主体的に学びをつなげられる学習過程
- ・聴き合って深められる授業づくり
- ・学びのアイテムの意識化

A-1 学校研究

A-2 研究構想図

A-3 活用を意識した授業モデル

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・物語の温かさやおもしろさにひかれて、心に残る言葉や文章、場面の様子を味わって読もうとする。 (関心・意欲・態度)
- ・登場人物の会話や行動を叙述に即してとらえ、登場人物の人柄・考え方・生き方を心情の変化を手がかりに読み取ることができる。 (読むこと)
- ・現在―過去―現在という物語の構成や擬音語・擬態語の効果がわかる。 (言語事項)

(2) 指導上の工夫点

① 一人学習の充実

- ・一人学習の手引きを活用する
- ・既習の同一領域における学びのアイテムを意識させる
- ・オープンエンドの授業で、課題に対する自分の考えをしっかりとらせる

② ノートの書かせ方の工夫

- ・振り返りで学びのアイテムを意識させる
- ・根拠を明確にして自分の考えを書かせる
- ・よいノートをよさのポイントを明確にして広める

③ 座席表活用の工夫

- ・課題に対する考えのキーワードを座席表に位置づけ、発表への自信を持たせる。
- ・発言のつながり合いを仕組み、話し合いの活発化と深まりを作り出す

④ 学びのアイテムを確かな学力につなげる工夫

- ・これまでの学びのアイテムを活用して自分の考えを持たせる
- ・次に使える学びのアイテムを掲示する

B-1 単元計画

B-2 一人学習の進め方

B-3 ノートの書き方

3 指導の実際

- 第一次<読みのめあてをもち一人学習で作品の概要をとらえる>→単元のゴールの明確化
- 第二次<登場人物の考え方や生き方を叙述を手がかりに読み取る>→学びのアイテムを増やす
- 第三次<作品の主題をとらえ自分の「〇〇の中の神様」を書く>→教材の主題や構成を生かす

第二次の6時の様子

| 学習活動 | 教師の働きかけと児童の反応・意識 | 支援◎ |
|---------------------|--|--|
| 1 課題を確認しアイテムを意識する | <p><マサエはなぜ「この雪げたにも神様がいるかもしれないね。」と言ったのかな></p> <p>○どんなアイテムを使って考えましたか</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>マサエの会話や行動から考えた 前の文章から考えた 前の場面のマサエの会話や行動から考えた おばあちゃん（別の人）の言葉から考えた 自分の体験から考えた 自分と比べて考えた 言葉に着目して解釈した</p> </div> | <p>◎前時に課題提示し考え持たせておく。</p> <p>◎これまで積み上げてきたアイテムの中から自分が使ったアイテムをメタ認知できるようにする。</p> <p>◎キーワードのみを座席表に記入したものを与え分析し、自分の出番を考えられるようにする。</p> |
| 2 座席表を分析し自分の考えを整理する | <p>○座席表を分析しましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分と同じ考えの人がいるぞ ・〇〇さんの考えを聞いてみたい | <p>◎第一発言者は意図的に指名するが、その後は座席表を使って、児童同士でつなげていけるように声をかける。</p> |
| 3 考えを聴き合い深める | <p>○考えをつなげて聴き合い深めていきましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪げたに着目した → わらぐつと同じで使う人の身になって作ったものだから ・おじちゃんの思いに着目した → おばあちゃんのためにせつせと働いて買ってくれた ・だれかのために心をこめていところが似ている <p>○マサエの考えた神様を一言で表してみましょう</p> | <p>◎つなげて発表するアイテムとして「出番を考え・つなげて・相手を意識して」の3つを意識させる。</p> |
| 5 ふり返る | <p>○今日は、どんなアイテムで深まったのかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・似た意味の言葉を探していくというアイテムを使ったから と「神様」の意味がわかってきた | <p>◎学びのアイテムを意識して1時間をふり返らせる。</p> <p>◎次に使えるアイテムを教室掲示する。</p> |

出番を考えつなげて相手を意識して
 「似ています」「根拠が違います」「まとめます」「～さんは…と言いましたね」「～さんが言いたいのは…だと思っただけだ」

- C-1 本時案
- C-2 座席表
- C-3 本時板書
- C-4 既習のアイテム掲示

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 学びをつなげる工夫

学びのアイテムの掲示や学びの足跡としてノートの利用が効果であった。12月に実施した授業アンケートでは、学級の96%の児童が「これまでの学習を生かして考えることができた」と回答していた。
- ② 考えをつなげる工夫

座席表の活用で、児童の発言が増えた。また、分析の時間を設定したことで自分の出場を考えた話し合いが少しずつできるようになった。授業アンケートでも「考えを伝える」「比べながら聞く」の設問における肯定的な回答が、5月調査よりも2割程度多くなっていた。
- ③ 学びのアイテムの意識化

蓄積してきたアイテムを使って考えをもととしたり、ふり返りで使えるようなアイテムを意識したりすることができた。授業アンケートの「課題に対して自分の考えを持つ」という設問においては学級の全員の児童が肯定的な回答をしていた。

(2) 課題

学年の系統を考えた「つけたい力」をさらに明確にし、学びのアイテムの内容の吟味を進め、六年間の学びの中で確かな学力を育むことを共通理解し実践を進めること。